

令和4年度 第2回 埼玉県立近代美術館協議会

【目次】

○ 令和4年度事業実施状況	P 1
1 常設展示事業	P 1
2 企画展示事業	P 3
3 美術作品収集事業	P 8
4 一般向け普及事業	P 9
5 美術館の利用促進事業	P 10
6 子供向け事業	P 11
7 学校との連携	P 14
8 ボランティア活動	P 16
9 「椅子」の有効活用	P 16
10 一般展示室の利用状況	P 17
○ 令和4年度入館者数一覧	P 20
○ 令和5年度事業計画（案）	P 21
1 常設展示事業	P 21
2 企画展示事業	P 22
3 美術作品収集事業	P 25
4 一般向け普及事業	P 25
5 美術館の利用促進事業	P 26
6 子供向け事業	P 27
7 学校との連携	P 29
8 ボランティア活動	P 30
9 「椅子」の有効活用	P 31

日 時：令和5年3月9日（木）午後2時～

場 所：埼玉県立近代美術館 2階 講堂

令和4年度 事業実施状況

1 常設展示事業

(1) MOMASコレクション（常設展）の開催

全体を4期に分け、収蔵作品を中心にしつつ一部借用作品も交え、名品を核に構成する「セレクション」のほか、企画性の高い展示を実施している。

会 期	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
第1期	<p>○「セレクション」 ルノワールほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「デザインで語るユートピア — 1960-70年代イタリアから」 デザインを通して物質文化や生活環境が問い直された1960-70年代イタリア。その動きをデザイン椅子や関連資料から紹介する。</p> <p>○「特集：孫雅由の小宇宙」 生成と消滅、痕跡と不在など、哲学的思索と共に制作を続けた孫雅由（1949-2002）。県内の所蔵家・河正雄氏から寄贈された孫の小品群から、その思考と実践を探る。</p>	109点 (前後 期合計)	<p>自 4月30日（土） 至 8月28日（日） (101日間)</p>	<p>11,126人 1日当たり 110人</p> <p>うち有料観覧者数 7,859人 1日当たり 77人</p>
第2期	<p>○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「さいきんのたまもの」 昨年度に新たに収蔵した寄贈作品を紹介。</p> <p>○「月を待つ—日本画の夜景」 日本画における光の表現に注目し、横山大観や森田恒友など様々な画家の作品を紹介。</p>	80点 (前後 期合計)	<p>自 9月3日（土） 至 11月27日（日） (77日間)</p>	<p>9,503人 1日当たり 123人</p> <p>うち有料観覧者数 6,246人 1日当たり 81人</p>

第3期	<p>○「セレクション」 シャガールほか、MOMAS コレクションの名品を紹介。</p> <p>○「まるく／まわる」 円や球体をモチーフにした作品や、回転する作品に焦点をあてた展示。</p>	46点	<p>自 12月3日（土）</p> <p>至 令和5年 2月26日（日）</p> <p>（68日間）</p>	<p>5,040人 1日当たり 95人</p> <p>うち有料観覧者数 3,098人 1日当たり 58人 (2月9日 現在)</p>
第4期	<p>○「セレクション」 モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介。</p> <p>○「倉田白羊と森田恒友」 同じ年に生まれ、親交のあった埼玉ゆかりの画家・倉田白羊（1881-1938）と森田恒友（1881-1933）。ふたりの画業と交友の足跡を、作品や資料を通して紹介する。</p> <p>○「奥原晴湖／菊沢武江」 南画家、奥原晴湖（前期展示）と日本画家、菊沢武江（後期展示）。埼玉ゆかりの画家をそれぞれ紹介する。</p>	一点	<p>自 令和5年 3月4日（土）</p> <p>至 令和5年 5月7日（日）</p> <p>（57日間）</p>	<p>一人 1日当たり 一人</p> <p>うち有料観覧者数 一人 1日当たり 一人</p>

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

「アーティスト・プロジェクト#2.06 高橋銑 いき、またいきるまで」
7月16日（土）—10月2日（日）

MOMASコレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラム。今回は、近現代彫刻の保存・修復に従事することからキャリアをスタートしたアーティストの高橋銑を紹介。高橋は作品の素材となる物質の変化や、物質が内包する時間に注目しながら、有限や消失、ときに死について表現してきた。本展では、作者のこれまでの関心に基づく最新作を交えたインスタレーション作品を、展示室とセンターホールで紹介した。

(3) サンデー・トークの開催

例年、MOMASコレクション等の展示作品から毎回1点を選び、展示室において学芸員による解説を実施している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため開催を控えてきた。今後、感染症対策の制限緩和の時期を見計らって、再開を検討する。

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者数 (予定)
開館 40 周年記念展 扉は開いているか —美術館とコレク ション 1982—2022	1982年11月3日に開館し、 2022年に開館40周年を迎 える当館の活動を、収蔵作 品や資料によって振り返 るコレクション展。 本展では、美術館の原点と もいえる開館前後の活動、 展覧会などの活動と結び ついて形成されたコレク ション、美術館の建築や館 内外の空間に応答するよ うに生み出された作品や プロジェクトなど、さまざ まな視点から美術館の活 動とコレクションをひも といた。 埼玉県立近代美術館がこ れまでに築いてきた土台 を検証するとともに、こ れからの美術館を展望した。	約 180 点	自 2月5日(土) 至 5月15日(日) (88日間/R4年 度・40日間)	令和4年 度観覧者 数・4,550 人 1日当た り 113人 うち有料 観覧者数 2,667人 1日当た り 66人
シアトル→パリ 田中保とその時代	田中保(1886-1941)は岩 槻に生まれ、18歳で移民と してシアトルに渡ると、働 きながら絵画を学び、画家 としての活動を始めた。 1920年にパリに移住した 後は、サロン・ドートンヌ などの展覧会に出品を重 ねて評価を高め、肖像画や 裸婦像を中心に自らの芸 術を開花させた。この展覧 会では、当館のコレクショ ンを中心に借用作品を交 えて、田中の画業を振り返 る。あわせて田中が生活し たシアトルの状況や、パリ で同時期に活躍した美術 家などを紹介し、田中の生 涯と活動を時代とともに 検証した。	約 100 点	自 7月16日(土) 至 10月2日(日) (71日間)	9,924人 1日当た り 139人 うち有料 観覧者数 6,219人 1日当た り 87人

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
桃源郷通行許可証	芸術に触れるということは、私たちが今立つ現在地から遠く離れた時間や空間を経験することでもある。本展では、現在活躍中の6名の作家の作品と当館のコレクションとが出会う新たな空間の創出を試みた。コレクションと、様々な時代・ジャンルの美術作品や事物とを対照させて展示することによって、時空を超える芸術の力を探った。	約 140 点	自 10月22日(土) 至 1月29日(日) (81日間)	6,825人 1日当たり 84人 うち有料 観覧者数 3,052人 1日当たり 37人
戸谷成雄 彫刻	戸谷成雄(1947-)は1970年代から彫刻家としてのキャリアをスタートさせ、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品や「森」、「ミニマルバロック」シリーズなどの代表作を紹介し、その活動の全貌を振り返る。	約 40 点	自 2月25日(土) 至 5月14日(日) (69日間/R4年 度・30日間)	6,240人 (R4年度 見込)

(2) 関連事業等の開催

新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、企画展ごとに感染症対策を講じた講演会等を実施する。

ア シアトル→パリ 田中保とその時代

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
9月10日(土)	オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」	語り手：佐伯綾希(当館学芸員) 司会：高橋真理以(岩槻観光委員会)	100人	35人

イ 桃源郷通行許可証

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
11月6日（日）	アーティスト・トーク ①松本陽子×建畠哲	松本陽子（出品作家）×建畠哲（当館館長）	60人	31人
11月19日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジット—新たな数居学の提案」 ①「現代作家×コレクション：企画展「桃源郷通行許可証」について」	嶋原悠（当館学芸員）	60人	22人
12月3日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジット—新たな数居学の提案」 ②「歌舞伎と女—初代中村仲蔵の母おしゅんの業績」	トーヴェ・ビュールク （埼玉大学教授）	60人	13人
12月4日（日）	文谷有佳里ワークショップ「みえないドロ잉」	文谷有佳里（出品作家）	—	24人
12月4日（日）	アーティスト・トーク ②文谷有佳里×筒井宏樹	文谷有佳里（出品作家）×筒井宏樹（現代美術研究者）	60人	21人
12月10日（土）	ミュージアム・カレッジ 「トランジット—新たな数居学の提案」 ③「老荘思想の基本問題—政治思想を中心に」	西山尚志 （埼玉大学准教授）	60人	20人
12月11日（日）	アーティスト・トーク ③東恩納裕一×藤原えりみ	東恩納裕一（出品作家）×藤原えりみ（美術ジャーナリスト）	60人	23人

12月18日（日）	ミュージアム・カレッジ 「トランジット—新たな敷居学の提案」 ④「境界を生きる現代アメリカのアーミッシュ」	野村奈央 (埼玉大学准教授)	60人	11人
1月7日（土）	アーティスト・トーク ④佐野陽一×管啓次郎	佐野陽一（出品作家）×管啓次郎（詩人／明治大学教授）	60人	26人
1月14日（土）、15日（日）	松井智恵 映像作品上映会	—	—	1月14日：66人 1月15日：37人
1月14日（土）	アーティスト・トーク ⑤「松井智恵のタイムライン」松井智恵×橋本梓	松井智恵（出品作家）×橋本梓（国立国際美術館主任研究員）	60人	35人
1月14日（土）	アーティスト・トーク ⑥「SNSとものがたり」松井智恵×高橋信也	松井智恵×高橋信也（京都市京セラ美術館事業企画推進室ゼネラルマネージャー）	60人	29人
1月15日（日）	アーティスト・トーク ⑦「行きて帰りし桃源郷」松井智恵×建畠哲	松井智恵×建畠哲	60人	21人
1月22日（日）	アーティスト・トーク ⑧「環境と所在地、感覚することの先へ」稲垣美侑×井上尚子×青田麻未	稲垣美侑（出品作家）×井上尚子（美術作家）×青田麻未（美学研究者）	60人	29人

ウ 戸谷成雄 彫刻

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月26日（日）	担当学芸員の作品解説会	佐原しおり（当館学芸員）	60人	—
3月12日（日）	対談 戸谷成雄×建畠哲	戸谷成雄（彫刻家）×建畠哲（当館館長）	60人	—

(3) ギャラリー・トークの開催

新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、企画展ごとに感染症対策を講じた実施を検討する。

(4) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムとしてミュージアム・シアターを開催する。

今回は「ホラー映画とジェンダー／フェミニズム」をテーマに実施する。

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
3月5日（日）	第1回 上映作品：『悪魔のいけにえ』（1974年）	—	60人	—
3月5日（日）	第2回 上映作品：『サスペリア』（2018年）	—	60人	—
3月19日（日）	第3回 上映作品：『悪魔のいけにえ』（1974年）	—	60人	—
3月19日（日）	第4回 上映作品：『サスペリア』（2018年） 講演会「ホラー映画のジェンダー論」（上映終了後に開催）	鷲谷花（映画学・日本映像文化史研究）	60人	—

3 美術作品収集事業

令和5年1月31日現在

◆寄贈

令和4年9月下旬～10月上旬に第1回美術資料選考評価委員会を持ち回り審議にて開催し、下記の5点を寄贈により収集した。購入による収集はなし。なお、令和5年1月下旬～2月上旬に第2回美術資料選考評価委員会を持ち回り審議にて開催し、受入手続を進める予定。

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
1	彫刻	堀越陽子	罅	1985(昭和60)年	ステンレス、鏡	1
2	ドローイング	田中保	膝をつく裸婦	1920(大正9)年頃	鉛筆、紙	1
3	写真	スクリプカリウ落合安奈	Blessing Beyond the Borders	2019(令和元)年	ゼラチン・シルバープリント、紙	1
4	映像	スクリプカリウ落合安奈	Double Horizon	2020(令和2)年	音声付き デジタル映像、Full High Definition	1
5	映像	スクリプカリウ落合安奈	Double Horizon	2022(令和4)年	音声付き デジタル映像、4K/Full High Definitio	1

※ 収集方針: 1 本県にゆかりのある優れた作家の作品 2 本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術および関連領域に親んでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館で開催する展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後当館だけでなく様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定員等
3月21日 (火・祝)	文化財の継承と作品制作—クローン文化財事業の現場から	林樹里（日本画家・東京藝術大学 COI拠点 Arts&ScienceLAB 特任助手）	・定員：60名 ・参加費：無料

(2) 一般団体案内

企画展やMOMAS コレクション展を観覧する2名以上の団体を対象に、別室でスライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。案内内容は、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。

なお、視覚障がい者を対象としたガイドや出張講座も受け付ける。

(3) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

開室日時：火・木・土曜日の13時～17時

(4) 広聴広報活動

ア 県民の多様な要望を美術館活動に反映させるため、アンケートコーナーを設置する他、企画展、MOMAS コレクション、普及関連の講座等にあわせてアンケート調査を実施した。

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望の内容に応じて、随時回答を行う。

ウ 美術館広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国美術館等に配布した。

エ 美術館ホームページやTwitter、Facebook、YouTube を活用して、企画展やMOMAS コレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信した。

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 等各種の媒体に対して積極的なパブリシティに努める。

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを全世界に向けて発信した。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR 東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出した。

ク 北浦和地区の自治会、商店会との協力関係を築き、企画展チラシの回覧や掲示を行う。

ケ 埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力を得て、同店の大型ディスプレイにて美術館の情報を発信した。

コ 県民の日に MOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施した。

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園を活用し、美術館利用を促進する事業を実施した。

期 日	内 容	場 所	客席	参加者数
令和4年 6月4日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100	客席100 見学200

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんやよちよち歩きのお子様と一緒に展覧会をゆっくりご覧いただけるよう、MOMAS コレクション「ファミリー鑑賞会」を実施する。春秋2回の実施予定であったが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

期 日	内 容	参加者数
中止	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	—

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催した。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施する。アーティストを講師に招くこともある。

令和3年度より、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、より安全に実施できるプログラムに絞って、全て事前予約制で実施することとした。各回の定員を少人数にすることで参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行うようにした。また、展覧会の作品鑑賞を行うプログラムについては、MOMASコレクション関連プログラムと企画展関連プログラムを分けず、柔軟に対応できるようにした。令和4年度も事前予約制とし、人数制限を設け実施した。

ア 「みる+つくる」

MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、それをもとに簡単な制作を行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 10月 8日	「どんどころに行こうかな？夢見るトランク！」 鑑賞をもとに、旅する自分を想像し、段ボールなどの素材を使ってトランクをつくる	12人	9人
10月22日	※10月8日と同様。	〃	9人
11月 5日	※10月8日と同様。	〃	9人
12月10日	「ガクガク？わくわく？額縁をつくろう！」 作品鑑賞を通して、作品と額縁の関係性を考えながらオリジナルの額縁を制作することを楽しむ	〃	10人
12月17日	※12月10日と同様	〃	11人

イ 「親子クルーズ」

MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、それをもとに簡単な制作を行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 6月25日	「かく かく しかくでランプを作ろう！」 四角の木枠に障子紙を貼ったものでランプシェードをつくり、水彩絵の具で着彩する	6組	6人
7月 2日	※6月25日と同様。	〃	10人
令和5年 2月 4日	「見えない気持ちをかたちにしたら」 鑑賞を通して、自分の気持ちを形にした作品をつくり、親子の作品を合体させる	〃	12人
2月11日	※2月 4日と同様。	〃	12人

ウ 「み～っけ！」

幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむ。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 6月 4日	「キラキラ枢機卿に大変身！」 紙のマントと鳥帽子に好きな模様を描く	6組	12人
6月11日	※6月4日と同様。	〃	11人
11月19日	「かく、カク、カラフル かがやく四角！」 美術館にある形(四角)を見つけて、大きな布に四角い形をうつして楽しむ	〃	10人
12月 3日	※11月19日と同様。	〃	14人

エ 「工房」

美術館ならではの制作活動を楽しむ。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 7月16日	「板から椅子ができた！」 デコパネを無駄なく使いミニチュア椅子をつくる	12人	11人
7月23日	※7月16日と同様。	〃	10人
令和5年 1月21日	※7月16日と同様。	18人	13人
1月28日	※7月16日と同様。	〃	9人
3月 4日	— 未定 —	〃	—
3月11日	※3月4日と同様。	〃	—

オ 「彫刻あらいぐま」

屋外彫刻を親子で洗って鑑賞する。彫刻ボランティアが講師として活動する。

期 日	内 容	定員	参加者数
令和4年 5月 7日	「あらって見よう！彫刻作品」	2組	5人
5月14日	※5月7日と同様。	〃	4人
9月10日	「あらって見よう！彫刻作品」	〃	4人
9月17日	※9月10日と同様。	〃	2人

カ 「フリープログラム」

天候・会場等に合わせ、誰でも参加できるプログラムを実施した。
内容によって適切な定員を設定し、時間制で複数回実施した。

期 日	内 容	参加者数
令和4年 4月 9日	「洗濯ばさみで絵をかこう！」 「MOMAS探検隊！」	33人
4月23日	4月9日と同様。	36人
4月30日	「お気に入りの椅子を見つけよう！」 「MOMAS探検隊！」	20人
8月13日	台風接近のため、中止	—
10月 1日	「お気に入りの椅子を見つけよう！」 「洗濯ばさみで絵を描こう！」	47人
令和5年 1月14日	「洗濯ばさみで絵を描こう！」 「カクカクつなげて遊ぼう！」	87人

※内容詳細

- ・「風を描こう！」風になったつもりでアクリルボードに風景を描いたり、描いた風景に登場したりして楽しむ。
- ・「カクカクつなげて遊ぼう！」松本薫《Cycle90°》の形や動きの面白さに気付き、作品づくりを楽しむ。
- ・「お気に入りの椅子をみつけよう！」グッドデザインの椅子を鑑賞し、お気に入りの見つけて楽しむ。
- ・「MOMAS探検隊！」館内を巡り、作品を見つけたり美術館の裏側を見たりして楽しむ。

キ 「サマー・アドベンチャー」

夏休み期間限定の特別プログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 8月 6日	「お面をつくろう！」 (段ボールに様々な素材をつけて、お面をつくる。講師：平島鉄也氏)	12人	12人
8月13日	台風接近のため中止	内容によって異なる	—
8月20日	「カッコイイ緑をつくろう！」 (絵の具を使って、「カッコイイ緑」をつくる。講師：内海聖史氏)	12人×2部	22人
8月27日	「みる+つくる サマー・アドベンチャー特別版」 「どんな作品が似合うかな？～額縁の世界～」	12人	9人

ク 「もますまつり」

県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 11月14日	「風を描こう！」 「カクカクつなげて遊ぼう！」	内容によって異なる	75人

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に活用できるように、必要に応じて情報提供やアドバイス等を行う。

※公立小中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催 (7/16～8/25)

令和4年度利用者数 1,385人

(3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中に3回程度、各回午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内する。令和3年度中止。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和4年 8月10日	「右脳でつくる！オリジナルりんご」 (講師：代 淳子／行田市立見沼中学校 教諭)	20人	18人

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定した。※令和4年度単位認定11人

また、他大学の学生にも、様々な教育普及事業に協力してもらう。

(3) 博物館実習生の受け入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、実習を行う。

※令和4年度受入：13大学 17人

(4) 学校による団体利用の受入（随時実施）

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行う。

- ① 1階展示室「MOMAS コレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため⑥は中止。

⑤⑦は人数制限を設けて実施している。

※令和4年度実績：22校 1,066人（1月末現在）

(5) 学校への授業協力（随時実施）

以下の内容の他、実態やねらいに合わせて出張授業を行っている。

- ①「知ってる？ピカソ！」
- ②「日本画って何だろう？」
- ③「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④「見て★座って！お気に入りの椅子を見つけよう！」
- ⑤「洗濯ばさみで絵を描こう！」

※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、⑤を含む造形遊びやカードなどを操作する内容は当面の間見送る。

※令和4年度実績：33校 87学級 2,395人（1月末現在）

(6) 研修協力（随時実施）

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行う。

※令和4年度実績：5件（1月末現在）

(7) 学校への複製画やアートカードの貸し出し（随時実施）

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材を貸し出した。

※令和4年度実績：30件 146点（1月末現在）

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を展開する。

※令和4年度は2校で実施予定。

(9) 公募プログラム「カラダで・みる、うごいて・みる！」の開催

美術館における教育普及活動の価値を広くアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の学校を対象とした公募プログラム第4回を実施した。

※4校13作品の応募。

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足したもので、美術館が月1回開催する研修会への出席をはじめ、自主的な研修を重ねている。主な活動として、「MOMASコレクション」開催中の毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため、美術館サポーターが1階展示室内において作品解説を行う。

令和4年度は屋外彫刻を中心とした作品のガイドや、天候に合わせて屋内から建築や彫刻などの作品を中心にガイドを再開している。研修会は感染対策を講じて行い、状況によっては資料送付のみ行う。

※令和4年度登録：38人

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフ。教員や美術教育に関心をもつ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めまでに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行う。

※令和4年度登録：合計113人

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、彫刻ボランティアは土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。令和4年度は洗浄プログラムの各回の定員を制限する代わりに、春季と秋季に2回ずつ実施した。春季は5月7日と5月14日に実施。秋季は9月10日と9月17日に実施。

※令和4年度登録：9人

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッド・デザインの椅子を、入館者に自由に鑑賞してもらおう。

これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて、定期的に入れ替えを行い、常時20脚から30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介してきたが、令和4年度現在、新型コロナウイルス感染症対策のため限定的な配置をしている。

また、学校への授業協力や「MOMASのとびら」プログラムでも活用する。

10 一般展示室の利用状況

令和5年1月31日現在

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展 示 点 数 (点)	観 覧 者 数 (人)	一 日 平 均 観 覧 者 数 (人)
		自	至						
1	第50回記念主体美術武蔵野作家展	4月5日	4月10日	6	2・3	油彩	89	562	93
2	第35回溪水会展	4月5日	4月10日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	59	561	93
3	第37回さいたま閨秀展	4月12日	4月17日	6	1	書	51	563	93
4	第8回栗田ひさし・梨伽の絵画二人展	4月12日	4月17日	6	3	日本画、水彩、水墨画	55	510	85
5	第14回彩ボタニカルアート展	4月12日	4月17日	6	4	水彩	48	578	96
6	第16回フォト・トルトゥーガ写真展	4月19日	4月24日	6	2	写真	50	483	80
7	2022 阿佐見昭彦写真展<記憶する眼Ⅱ>	4月19日	4月24日	6	3	写真	38	504	84
8	創立45周年記念埼玉女流工芸展	4月28日	5月1日	4	1	工芸	155	1,144	286
9	現代中国芸術国際交流展第4回目	4月26日	5月1日	6	2・3	日本画、水彩、油彩、書	40	466	77
10	第11回五彩展	4月26日	5月1日	6	4	水彩、油彩、コラージュ	60	778	129
11	第25回埼玉二科展	5月3日	5月8日	6	1~4	油彩、彫刻、デザイン	97	1,198	199
12	第70回記念「県展」	6月1日	6月23日	20	1~4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	1,961	23,104	1,155
13	第41回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月6日	7月10日	5	1	写真	495	1,011	202
14	第27回基の会展	7月5日	7月10日	6	2	油彩	27	314	52
15	思い出の作品展(若柳佳子)	7月5日	7月10日	6	4	油彩	46	312	52
16	第20回埼玉独立展	7月12日	7月17日	6	1~3	油彩	60	661	110
17	第1回エスポワール絵画展	7月12日	7月17日	6	4	水彩	38	635	105
18	第48回埼玉二紀展	7月19日	7月24日	6	1~4	油彩、彫刻	130	867	144
19	3人書展—良寛を語る—保坂春翔、中山信龍、作村光風	7月26日	7月31日	6	1	書	148	331	55
20	第16回書<縁en>展	7月26日	7月31日	6	2~4	書	182	300	50
21	第31回旺玄会埼玉支部展	8月2日	8月7日	6	2~4	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル	80	454	75
22	第56回埼玉平和美術展	8月9日	8月14日	6	1~4	水彩、油彩、版画、彫刻、インスタレーション	331	1,278	213
23	廻ノ帰 大喜多瞳子・ネモトサトコ二人展	8月16日	8月28日	11	4	油彩、ドローイング、アクリル	16	962	87
24	墨芳誌800号記念第34回墨芳展	8月24日	8月28日	5	1・3	書	111	664	132
25	第7回現代アート「実験02」展	8月23日	8月28日	6	2	油彩、ドローイング、版画、書、ミクストメディア	50	544	90
26	パッチワークキルト作品展2022	8月30日	9月4日	6	1	パッチワークキルト	306	800	133
27	2022埼玉モダンアート展	8月30日	9月4日	6	2・3	水彩、油彩、版画、彫刻	29	593	98
28	ヨシズミトシオ展	8月30日	9月11日	12	4	油彩、版画、水墨画	48	1,031	85
29	第60回記念新構造埼玉展	9月6日	9月11日	6	1	水彩、油彩、彫刻、写真	84	782	130
30	第12回関口健司展	9月6日	9月11日	6	2	水彩	21	368	61
31	ニッコールクラブさいたま支部第12回写真展	9月6日	9月11日	6	3	写真	65	536	89
32	第65回記念埼玉書道展	9月16日	9月18日	3	1~4	書	757	1,100	366
33	第35回埼玉創元展	9月20日	9月25日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	63	732	122
34	第30回工芸新樹会公募展	9月20日	9月25日	6	2	工芸	47	529	88
35	第36回フォトグループWAVE写真展	9月20日	9月25日	6	3	写真	91	643	107
36	一蓮托生 付鴻雁個展	9月20日	9月25日	6	4	油彩、アクリル	37	602	100
37	第39回埼玉県写真サロン	9月27日	10月2日	6	1	写真	390	1,089	181
38	第14回フォトサークル・オプト	9月27日	10月2日	6	2	写真	229	1,024	170
39	第40回キャンフオトクラブ写真展	9月27日	10月2日	6	3	写真	38	719	119
40	第26回西遊会美術展	9月27日	10月2日	6	4	水彩、油彩、版画	50	582	97
41	第54回第一美術協会埼玉支部展	10月4日	10月9日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	182	1,086	181
42	第55回埼玉三軌展	10月4日	10月9日	6	2・3	日本画、水彩、油彩	57	562	93
43	第36回溪水会展	10月4日	10月9日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画	43	566	94
44	第18回水彩連盟西支部展	10月11日	10月16日	6	1	水彩	50	702	117
45	第21回美術協会純展・埼玉支部展	10月11日	10月16日	6	2	水彩、油彩、ペン画	40	602	100

No.	展覧会名	開催期間 R4年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
46	第37回アート現字展	10月11日	10月16日	6	3	油彩、アクリル	28	458	76
47	2022椽の会展	10月11日	10月16日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイング	51	537	89
48	第6回公募ZEN展	10月18日	10月23日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング、イラスト	195	975	162
49	第23回地平展	10月18日	10月23日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、インスタレーション	55	582	97
50	截金工芸展（町田築泉）	10月18日	10月23日	6	3	工芸	100	369	61
51	全日本写真浦和支部写真展	10月18日	10月23日	6	4	写真	43	525	87
52	第43回太平洋埼玉展	10月25日	10月30日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	87	815	135
53	第15回悠友展	10月25日	10月30日	6	2・3	水彩、油彩	42	673	112
54	第3回祈りのかたち 仏像彫刻展	10月25日	10月30日	6	4	彫刻	58	756	126
55	2022 CAFネビュラ展	11月2日	11月13日	9	1~4	日本画、水彩、油彩、版画、インスタレーション	91	3,030	336
56	第61回埼玉県高校書道展	11月16日	11月20日	5	1~4	書	673	984	196
57	第65回埼玉県高校美術展	11月23日	11月27日	5	1~4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、映像メディア	797	2,608	521
58	Sound Collection ~音を感じる写真展~	11月29日	12月4日	6	4	写真	37	436	72
59	埼玉県障害者アート企画展	12月7日	12月11日	5	1・2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	700	1,260	252
60	旅の記憶（野口泰久展）	12月6日	12月11日	6	4	写真	45	453	75
61	第56回全日本書道芸術展	12月13日	12月18日	6	1・2	書	220	371	61
62	TOTEM（北直人）	12月13日	12月18日	6	3	インスタレーション	35	128	21
63	第57回郷土を描く児童生徒美術展	12月24日	12月25日	2	1~4	水彩	120	636	318
64	第25回記念凧の会展	1月10日	1月15日	6	1~4	日本画、水彩、油彩、彫刻	162	586	97
65	文教大学 美術専修 卒業制作展	1月24日	1月29日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング	123	589	98
66	COLOR (palette)	1月24日	1月29日	6	3	水彩、油彩、ドローイング、書	64	480	80
67	文教大学 美術専修 0BOG展	1月24日	1月29日	6	4	日本画、水彩、油彩、彫刻、デジタル画	19	423	70
201日							合計	71,106人	353人
県展を除く181日							※県展無	48,002人	265人

埼玉県立近代美術館 一般展示室利用状況（年度別）

令和5年1月31日現在

年度		一般展示室					備考
		1 (612.8㎡)	2 (231.5㎡)	3 (138.9㎡)	4 (161.3㎡)	計 (1,144㎡)	
11	利用可能週	50	50	50	50	200	112件
	利用週	48	49	49	50	196	
	利用率	96	98	98	100	98.0%	
12	利用可能週	49	49	49	49	196	104件
	利用週	46	47	48	49	190	
	利用率	93.9%	95.9%	98.0%	100%	96.9%	
13	利用可能週	26	26	26	26	104	56件
	利用週	26	26	26	26	104	
	利用率	100%	100%	100%	100%	100%	
14	利用可能週	51	51	51	51	204	107件
	利用週	47	49	47	50	193	
	利用率	92.2%	96.1%	92.2%	98.0%	94.6%	
15	利用可能週	51	51	51	51	204	105件
	利用週	43	49	47	51	190	
	利用率	84.3%	96.1%	92.2%	100.0%	93.1%	
16	利用可能週	51	51	51	51	204	106件
	利用週	47	48	50	51	196	
	利用率	92.2%	94.1%	98.0%	100.0%	96.1%	
17	利用可能週	51	51	51	51	204	91件
	利用週	46	50	50	48	194	
	利用率	90.2%	98.0%	98.0%	94.1%	95.1%	
18	利用可能週	51	51	51	51	204	93件
	利用週	47	48	50	49	194	
	利用率	92.2%	94.1%	98.0%	96.1%	95.1%	
19	利用可能週	51	51	51	51	204	97件
	利用週	50	48	50	51	199	
	利用率	98.0%	94.1%	98.0%	100%	97.5%	
20	利用可能週	51	51	51	51	204	106件
	利用週	51	50	49	50	200	
	利用率	100%	98.0%	96.1%	98.0%	98.0%	
21	利用可能週	51	51	51	51	204	103件
	利用週	48	45	50	51	194	
	利用率	94.1%	88.2%	98.0%	100%	95.1%	
22	利用可能週	52	52	52	52	208	102件
	利用週	48	48	48	48	192	
	利用率	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	92.3%	
23	利用可能週	51	51	51	51	204	107件
	利用週	46	46	48	47	187	
	利用率	90.2%	90.2%	94.1%	92.2%	91.7%	
24	利用可能週	51	51	51	51	204	113件
	利用週	45	49	50	51	195	
	利用率	88.2%	96.1%	98.0%	100.0%	95.6%	
25	利用可能週	19	19	19	19	76	40件
	利用週	19	19	19	19	76	
	利用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
26	利用可能週	19	19	19	19	76	44件
	利用週	19	19	19	19	76	
	利用率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
27	利用可能週	47	47	47	47	188	112件
	利用週	45	44	46	47	182	
	利用率	95.7%	93.6%	97.9%	100.0%	96.8%	
28	利用可能週	48	48	48	48	192	104件
	利用週	43	37	42	46	168	
	利用率	89.6%	77.1%	87.5%	95.8%	87.5%	
29	利用可能週	47	47	47	47	188	100件
	利用週	44	38	40	42	164	
	利用率	93.6%	80.9%	85.1%	89.4%	87.2%	
30	利用可能週	47	47	47	47	188	92件
	利用週	39	37	36	38	150	
	利用率	83.0%	78.7%	76.6%	80.9%	79.8%	
元	利用可能週	43	43	43	43	172	86件
	利用週	38	34	35	40	147	
	利用率	88.4%	79.1%	81.4%	93.0%	85.5%	
2	利用可能週	39	39	39	39	156	40件
	利用週	16	12	15	22	65	
	利用率	41.0%	30.8%	38.5%	56.4%	41.7%	
3	利用可能週	50	50	50	50	200	61件
	利用週	29	25	24	28	106	
	利用率	58.0%	50.0%	48.0%	56.0%	53.0%	
4	利用可能週	40	40	40	40	160	67件
	利用週	34	35	37	37	141	
	利用率	85.0%	87.5%	87.5%	92.5%	88.1%	

(※利用実績には県展を含む【R2及びR3を除く】)

令和4年度入館者数一覧（令和5年1月31日現在）

	展示事業						普及事業					貸館事業	
	入館者数	企画展示				企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMFアート 関連	資料閲覧室	一般 展示室	埼玉県美術 展覧会	
		MOMAS コレクション	開館40周年 記念展	田中保とその 時代	桃源郷通行 許可証								戸谷成雄
開催期間	4/1(金) ～ 3/31(金)	4/1(金) ～ 5/15(日)	7/16(土) ～ 10/2(日)	10/22(土) ～ 1/29(日)	2/25(土) ～ 5/14(日)					4/5(火) ～ 1/29(日)	6/1(水) ～ 6/23(木)		
日 (日数)	257	40	71	81		192	16	43	-	104	20		
観覧者数 利用者数 (人)	123,257	4,550	9,924	6,825		21,299	443	621	-	48,002	23,104		
1日当たり (人)	479	113	139	84		110	27	14		265	1,155		
有料	一般個人	6,698	2,209	5,414	2,617	10,240							
	一般団体	1,023	236	504	207	947							
	大高個人	717	214	286	222	722							
	大高団体	55	8	15	6	29							
合計 (人)	8,493	2,667	6,219	3,052		11,938							
無料	18,252	1,883	3,705	3,773		9,361							

月別入館者数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入館者数 (人)	10,567	11,072	26,596	9,018	9,796	13,945	13,157	13,807	6,961	8,338			123,257

令和5年度 事業計画(案)

1 常設展示事業

MOMASコレクション（収蔵作品を中心とした展示）の展示計画（案）

年間を4期に分け、多彩なテーマによる収蔵品紹介や調査研究に基づいた展示を行い、サンデー・トークなどの関連事業も実施する。

第1期 5月13日（土）－ 8月27日（日）

「セレクション：企業の支援によるコレクション」

埼玉りそな銀行（旧埼玉銀行）のご支援で開館当初に収蔵された主な作品を取り上げ、当館のコレクションの形成について振り返る。埼玉りそな銀行発足20周年に関連した展示。

「MOMASノ海」

海をテーマにした作品を紹介。

第2期 9月2日（土）－ 11月26日（日）

「セレクション」

シニャックほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「特集：須田剋太」

埼玉出身の画家・須田剋太は、生命感あふれる力強い抽象画を数多く制作した。当館の須田剋太コレクションを一挙公開。

第3期 12月2日（土）－ 2024年2月25日（日）

「セレクション」

モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「魅惑のリアリズム」

倉田弟次郎、上田薫など近現代の作家による「リアル」な表現に注目し、その多彩な魅力を紹介する。

第4期 2024年3月2日（土）－ 6月2日（日）

「セレクション」

ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。

「チェアーズー椅子の美術館」

当館が所蔵するデザイン椅子を一挙公開。

「さいきんのたまもの」

田中保や正木隆など、近年新たに収蔵した作品を紹介。

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
戸谷成雄 彫刻	戸谷成雄（1947-）は1970年代から彫刻家としてのキャリアをスタートさせ、戦後の日本美術における彫刻表現を牽引してきた。本展では初期作品のほか、「森」、「ミニマルバロック」シリーズを含む代表作を紹介し、その活動の全貌を振り返る。	約40点	自 2月25日（土） 至 5月14日（日） （69日間/R5年度・39日間）	約7,500人（R5年度内見込）
横尾龍彦 瞑想の彼方	横尾龍彦（1928-2015）は、日本とドイツを往来しながら活躍した画家である。1960年代後半、神話や聖書を題材とした幻想画を描き、澁澤龍彦や種村季弘ら著名人に認められた。1980年以降には、禅やルドルフ・シュタイナーの思想に影響を受け、瞑想によって湧き上がるイメージを、絵具の激しい飛沫やダイナミックな描線によって抽象的に表現するようになった。晩年は埼玉県内のアトリエを拠点に、制作やワークショップに尽力しました。本展では、その活動の全貌を紹介する。	約90点	自 7月15日（土） 至 9月24日（日） （65日間）	約12,000人

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
イン・ビトウィーン (仮称)	<p>本展では、1930年代から50年代にかけてシュルレアリスムの表現を探究した画家・早瀬龍江(1905-1991)、「もの派」の理論形成に影響を与える一方、版画やドローイング、水墨によるコンセプチュアルな作品を手がけた林芳史(1943-2001)などの足跡を当館のコレクションを中心にたどる。自身の身体的な感覚を拠りどころに、日常や歴史、国境などさまざまな境界の間に立ち、往還を試みるアーティストたちの眼差しを紹介する。</p>	未定	<p>自 10月14日(土) 至 1月28日(日) (85日間)</p>	約16,000人
アブソリュート・ チェアーズ	<p>美術の中の椅子は、権威の象徴として、記憶の依り代として、あるいは拡張された身体として、さまざまな機能や象徴性をまとっている。椅子という身近でありながら特異な造形物の背後には、どのような哲学や思想を見出せるだろうか。デザインの文脈を離れ、現代のアーティストによる平面・立体・映像作品を通して、「究極・絶対」なるものとしての椅子に迫る。</p>	未定	<p>自 2月17日(土) 至 5月12日(日) (76日間/R5年度・38日間)</p>	約7,000人(R5年度内見込)

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催する。

展覧会名	内 容	作品数 (予定)	期 間	観覧者 見 込
アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽	永井天陽（1991-）は、アクリル材や剥製、既製品など、異なる素材を重ね合わせることで、多重の境界をもつ彫刻作品を制作してきた。内と外が主張し合いながら一体化する作品群は、表層とかたち、輪郭の関係を揺らがせ、日常の認識を問いかける。本展示では、永井の最新作を交えたインスタレーションを館内各所で行う。	未定	自 10月14日（土） 至 1月28日（日） （85日間）	—

(3) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムとしてミュージアム・シアターを開催する。

3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集する。

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術および関連領域に親んでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館で開催する展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後当館だけでなく様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定員等
未定	未定	未定	・定員：60人(予定) ・参加費：無料(予定)

(2) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2名以上の団体を対象に、別室でスライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。案内内容は、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。

なお、視覚障がい者を対象としたガイドや出張講座も受け付ける。

(3) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

(4) 広聴広報活動

ア 県民の多様な要望を美術館活動に反映させるため、アンケートコーナーを設置する他、企画展、MOMAS コレクション、普及関連の講座等にあわせてアンケート調査を実施する。

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望の内容に応じて、随時回答を行う。

ウ 美術館広報紙「ソカロ(MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国美術館等に配布する。

エ 美術館ホームページやTwitter、Facebook、YouTubeを活用して、企画展やMOMASコレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信する。

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB等各種の媒体に対して積極的なパブリシティに努める。

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを全世界に向けて発信する。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出する。

ク 北浦和地区の自治会、商店会との協力関係を築き、企画展チラシの回覧や掲示を行う。

ケ 埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力を得て、同店の大型ディスプレイにて美術館の情報を発信する。

コ 県民の日にMOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施する。

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園を活用し、美術館利用を促進する事業を実施する。

期 日	内 容	場 所	定員	参加者数
令和5年 6月3日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	—	—

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんやよちよち歩きのお子様と一緒に展覧会をゆっくりご覧いただけるよう、MOMAS コレクション「ファミリー鑑賞会」を実施する。（2回）

期 日	内 容	参加者数
未定	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	—

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催する。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を受けて実施する。アーティストを講師に招くこともある。

新型コロナウイルス感染症対策を講じ、より安全に実施できるプログラムに絞って、全て事前予約制で実施する。各回の定員を少人数にすることで参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行う。

ア 「みる+つくる」

MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、それをもとに簡単な制作を行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 5月20日	－ 未定 －	18人	－
10月21日	－ 未定 －	〃	－
11月 4日	※10月21日と同様。	〃	－
12月 9日	－ 未定 －	〃	－
12月16日	※12月9日と同様。	〃	－

イ 「親子クルーズ」

MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、それをもとに簡単な制作を行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 7月15日	－ 未定 －	6組	－
7月22日	※7月15日と同様。	〃	－
令和6年 2月 3日	－ 未定 －	〃	－
2月10日	※2月3日と同様。	〃	－

ウ 「み～つけ！」

幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっぱい楽しむ。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 6月 3日	－ 未定 －	6組	－
6月10日	※6月3日と同様。	〃	－
11月25日	－ 未定 －	〃	－
12月 2日	※11月25日と同様。	〃	－

エ 「工房」

美術館ならではの制作活動を楽しむ。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 6月24日	－ 未定 －	18人	－
7月 1日	※6月24日と同様。	〃	－
令和6年 1月20日	－ 未定 －	〃	－
1月27日	※1月20日と同様。	〃	－
3月 2日	－ 未定 －	〃	－
3月 9日	※3月2日と同様。	〃	－

オ 「彫刻あらいぐま」

屋外彫刻を親子で洗って鑑賞する。彫刻ボランティアが講師として活動する。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 4月29日	「あらって見よう！彫刻作品」	2組	－
5月13日	〃	〃	－
9月 2日	〃	〃	－
9月16日	〃	〃	－

カ 「フリープログラム」

天候・会場等に合わせ、誰でも参加できるプログラムを実施する。

内容によって適切な定員を設定し、時間制で複数回実施する。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 4月 8日	－未定－	未定	－
4月22日	〃	〃	－
5月 6日	〃	〃	－
10月 7日	〃	〃	－
令和6年 1月13日	〃	〃	－

キ 「サマー・アドベンチャー」

夏休み期間限定の特別プログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 8月 5日	－ 未定 －	未定	－
8月12日	〃		－
8月19日	〃		－
8月26日	〃		－

ク 「もますまつり」

県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行う。

期 日	内 容	定 員	参加者数
令和5年 11月14日	－ 未定 －	未定	－

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に活用できるように、必要に応じて情報提供やアドバイス等を行う。

※公立小中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/15～8/29）

(3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中に3回程度、各回午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内する。

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図る。

期 日	内 容	定 員	参加者数
8月上旬	－未定－	各回30名程度	－

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する。

また、他大学の学生にも、様々な教育普及事業に協力してもらう。

(3) 博物館実習生の受け入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、実習を行う。

(4) 学校による団体利用の受入（随時実施）

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行う。

- ① 1階展示室「MOMAS コレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」等
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

(5) 学校への授業協力（随時実施）

以下の内容の他、実態やねらいに合わせて出張授業を行う。

- ①「知ってる？ピカソ！」
- ②「日本画って何だろう？」
- ③「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④「見て★座って！お気に入りの椅子をみつけよう！」
- ⑤「洗濯ばさみで絵を描こう！」

(6) 研修協力（随時実施）

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行う。

(7) 学校への複製画やアートカードの貸し出し（随時実施）

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材を貸し出す。

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を展開する。（年2校での実施を予定）

(9) 公募プログラムの開催

美術館における教育普及活動の価値を広くアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の学校を対象とした公募プログラムを実施する。

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足したもので、美術館が月1回開催する研修会への出席をはじめ、自主的な研修を重ねている。主な活動として、「MOMASコレクション」開催中の毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため、1階展示室内において作品案内を行う。（参考 令和4年度登録：38人）

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフ。教員や美術教育に関心をもつ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めまでに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行う。（参考 令和4年度登録：113人）

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、彫刻ボランティアは土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムを行う際の講師として活動している。洗浄プログラムは、春と秋に実施予定。（参考 令和4年度登録：9人）

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッドデザインの椅子を、入館者に自由に鑑賞してもらう。

これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて、定期的に入れ替えを行い、常時20脚から30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介してきたが、コロナ禍においては、感染症対策のため限定的な配置をしている。

また、学校への授業協力や「MOMASのとびら」プログラムでも活用する。

埼玉県
立近代
美術館

The Museum of Modern Art, Saitama

博物館施設評価について

1 博物館施設評価の目的

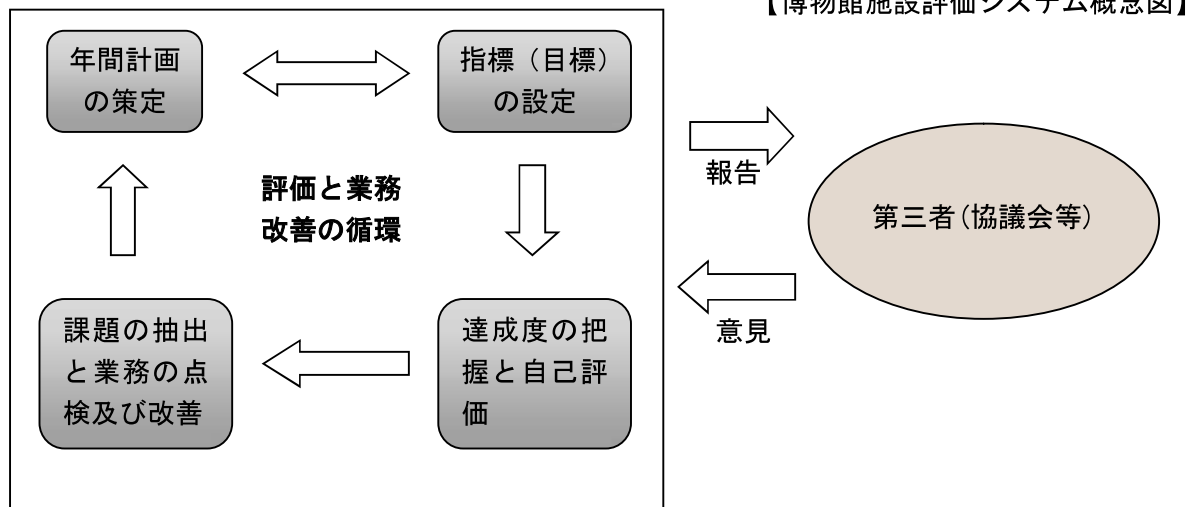
県立博物館施設は、効率的な運営や活動の内容を自律的に点検し、事務事業の改善に結びつけることにより、効率的な運営と活動水準の向上を実現するために、博物館の活動成果等を総合的に評価する。

(平成17年度から試行、平成18年度から本格導入)

2 対象施設

歴史と民俗の博物館、さきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館、自然の博物館、近代美術館、文書館の6館

3 博物館施設評価の仕組み



4 評価結果の公表

評価の最終まとめ終了後、評価結果を各館ごとにホームページで公表する。

5 評価指標

- | | | |
|-----------------|------------|------------|
| (1) 数値目標による評価項目 | 全館共通 (4項目) | 館別独自 (9項目) |
| (2) チェックリスト項目 | 全館共通 (9項目) | 館別独自 (3項目) |

令和4年度博物館施設評価集計シート（1月末実績・3月末推定）

施設名 近代美術館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		目標値の設定根拠
				1月末達成値	評価	特記事項
				3月末推定値	評価	特記事項
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	255,500人		第3期教育振興基本計画に基づく年度別利用者目標値
				125,700人	未達	
				146,825人	未達見込み	
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	37,850人		基準値: 37,422人 < 目標参考値 37,849 R3年4期4月分: 1,784人、R4年1期: 11,126人、2期: 9,503人、3期・1月末まで: 4,332人 2月、3月の観覧者数見込: 5,123人(4月～1月までの1日あたり観覧者数109人×開催日数47日=5,123人)
				26,745人	未達	
				31,868人	未達見込み	
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	1,870件		基準値: 1,869件 目標参考値: 1,869件 2月、3月の情報発信件数見込み: 381件(189件÷10月×2月)
				1,904件	達成	
				2,285件	達成	
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	44,863,000円		当該年度予算計上額 補正後の予算額
				30,353,106円	未達	
				37,925,000円	未達見込み	

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		目標値の設定根拠	
				1月末達成値	評価	特記事項	
				3月末推定値	評価	特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の観覧者数+D32:E37	32,240人		実施予定の企画展の予算積算人数	
				21,299人	未達	開館40周年記念展(令和4年度)/4,550人、田中保とその時代/9,924人、桃源郷通行許可証/6,825人	
				24,629人	未達見込み	「戸谷成雄 彫刻」の観覧者見込み:3,330人(4月から1月までの1日あたり観覧者数 111人×開催日数30日=3,330人)	
2	学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	44校		基準値:43.3校 目標参考値:43.3校	
				22校	未達		
				27校	未達見込み	3月末まであと5校実施予定。	
3	学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	48校			
				33校	未達		
				40校	未達見込み	3月末まであと7校実施予定。	
4	子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	590人		感染拡大防止に最大限配慮した計画数12人×33回<586人(昨年度)	
				272人	未達		
				570人	未達見込み	2/10まで522人参加。3月末までMOMASのとびらあと3回実施予定(感染防止対策をとった人数制限12人×1回と18人×2回のプログラム予定)。:522人+12人×1回+18人×2回=570人	
5	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	430件		基準値:430件 目標参考値:430件	
				324件	未達		
				372件	未達見込み	2月、3月の対応件数見込み:48件(R3実績値を積算。(R4.2月:23件、R4.3月:25件))	
6	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	1,064,810件		基準値:925,117件 目標参考値:1,064,810件	
				700,173件	未達		
				840,208件	未達見込み	2月、3月のアクセス件数見込み:140,035件(700,173件÷10月×2)	
7	広報	広報成果	広報媒体での掲載件数	320件		基準値:293件 目標参考値:315件	
				189件	未達		
				227件	未達見込み	2月、3月の掲載件数見込み:38件(189件÷10月×2月)	
8	満足度	MOMASコレクションアンケート	アンケートでのMOMASコレクション常設展満足度	80.0%			
				95.1%	達成	MOMASコレクション1期:98%、2期:92.1%	
				95.1%	達成見込み	3期見込み:95.1%、4期見込み:95.1% (双方とも1期、2期の平均とする)	
9	満足度	企画展アンケート	アンケートでの企画展満足度	80.0%			
				90.3%	達成	開館40周年記念展(令和4年度)91%、田中保とその時代95%、桃源郷通行許可証85%	
				90.3%	達成見込み	戸谷成雄 彫刻の見込み:90.3%(4月から1月までの平均とする)	

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>* 常設展の開催 収蔵品を中心にしたMOMASコレクションを4期にわけて開催。：1期・4月30日～8月28日、2期・9月3日～11月27日、3期・12月3日～2月26日、4期・3月4日～5月7日。収蔵作品の名品を中心とした「セクション」のコーナーのほか、調査研究に基づいた特集展示やテーマを掲げたコーナーなどを設ける。</p> <p>* 企画展の開催 年間4本の企画展を実施。「開館40周年記念展 扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」2月5日～5月15日、「シアトルーバリ 田中保とその時代」7月16日～10月2日、「桃源郷通行許可証」10月22日～1月29日、「戸谷成雄 彫刻」2月25日～5月14日</p> <p>* 教育普及事業 学校団体案内、授業協力、教材貸し出し、アーティスト派遣事業「ミュージアム・キャラバン」、ワークショップ「MOMASのとびら」、教員美術講座</p> <p>* 広報事業 ホームページ、ツイッター、フェイスブックでの情報発信。美術館広報紙「ソカロ」等の作成、企画展のポスター・ちらしの配布</p> <p>* 一般展示室の貸出 当館地階の一般展示室1～4において、団体展、グループ展、個展など、県民の作品発表の場を提供。</p>
事業の実施状況と過程	<p>* 常設展の開催 上半期の10月末までの観覧者数は19,462人で順調な実績であったが、下半期はやや伸び悩み、1月末現在の観覧者数は26,745人である。3月末の観覧者数は31,868人と予測しており、目標値の約84%である。</p> <p>* 企画展の開催 時宜に合った独自性のあるテーマで、企画展のラインナップを組むことができた。「開館40周年記念展」、「田中保とその時代」、「桃源郷通行許可証」は、いずれも当館のコレクションを活用した企画展である。「開館40周年記念展」では、開館当初からの当館の活動を振り返りつつ、これからの美術館の在り方を展望した。「田中保とその時代」は本県ゆかりの画家の久しぶりの回顧展として高い関心を集め、観覧料収入は当初予算額の108%を超える実績となり、図録は会期中に完売した。「桃源郷通行許可証」は6名の現代作家とコレクションとのコラボレーションを試みる意欲的な展示で、コレクションに対する新しいアプローチを提示した。</p> <p>* 教育普及事業の実施 学校関係については、コロナ禍のため多少の変更はあるものの、授業協力、団体案内などの依頼が多くなっている。しかし、希望する時期が重なることが多く、対応できないこともある。ワークショップは当面の間、人数を制限する必要があるが、より多くの参加者が楽しめるよう、複数のプログラムを異なる場所で実施する回などを設定したり、感染拡大防止対策をとりながら事前申込なしでも参加できる回を設定した。人数制限の緩和や新しいプログラムの開発など、今後のよりよい運営に向けて検討している。</p> <p>* 広報事業の取組 ソカロ等の発行・配布、SNSでのコレクションや展示会の紹介など、その都度適切な時期に情報を発信している。</p> <p>* 一般展示室の貸出 1月末現在で、第70回記念「県展」(6月1日～23日。観覧者数：23,104人)、第41回埼玉県高等学校写真連盟展(7月6日～10日。観覧者数：1,011人)、第65回埼玉県高校美術展(11月23日～27日。観覧者数：2,608人)など、67団体の利用があり、昨年同時期の50団体を上回っており、3月末までには87団体の利用を見込んでいる。</p>
事業の成果	<p>* 常設展観覧者数は前年度の約84%となる見込みであるが、昨年度が好調であったことを考えると一定の水準は達成できた。企画性の高い内容や調査研究に基づいた特集展示などを盛り込み、常設展のセクションの構成に工夫を凝らした。展示方法に関しても、予算上の制約はあるが、様々なアイデアを取り入れて、変化に富んだ展示を目指した。</p> <p>* 企画展観覧者数は昨年度の約60%となる見込みであるが、昨年度が好調であり、かつ開催本数が1本減少したことを考えると、一定の水準は達成できた。予算上の制約がある中で、コレクションを積極的に活用し、新しい視点を交えた展示に取り組んだ。「田中保とその時代」では、アメリカの研究者に協力を仰ぎ、海外のデジタルアーカイブも活用して、最新の研究成果を交えた現代的な視点から画家の魅力を紹介した。観覧者数は9,000人を超え、予想以上の反響があった。</p> <p>* 学校の団体利用や授業協力などの評価は未達見込みではあるが、学校との連携事業として、ミュージアム・キャラバンの実施や、学校への複製画などの貸し出しなども積極的にを行い、一定の水準は達成できた。</p> <p>* 一般展示室の貸出は、コロナ禍により昨年度は61団体の利用にとどまったが、令和4年度はコロナ禍以前に近い水準まで利用団体数が戻ってきており、県民に対して作品発表の場を提供することができた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	22人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	170,291,000円	職員一人あたりの県民人口	333,239人
収蔵資料総点数 (R4.3末現在)	4,077点	事業経費 (上記の内数)	119,968,000円	利用者一人あたりのコスト (令和3年度)	1,372円
令和3年度 収集資料点数	294点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	44,863,000円 (20,540,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和3年度)	1.83%

(注) 令和4年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,331,256人である

2. 全館共通項目チェックリスト

近代美術館

評価基準			
完了または順調に進捗している問題がない状態			A
着手状態乃至課題が残されている状態			B
未着手状態			C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	美術資料収集方針
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	同上
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	同上
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	美術資料取扱規程
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	A	第1回資料選考評価委員会を開催。第2回を2月に予定。
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	美術資料取扱規程
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	2月上旬に実施
資料の保存管理	① 収集・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収集作品の保存管理要領
	② 収集・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	同上
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	同上
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	同上
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B 3月末推定:B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	収集作品の保存管理要領
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	同上
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	同上
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	同上
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	同上
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	同上
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B 3月末推定:B	予算不足のため作品修復が滞っている。今年度は3点のみ修復。
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	美術資料取扱規程

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	美術資料取扱規程
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	同上
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	B	貸出等手続はHPで未公開
			3月末推定:B	
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	MOMASコレクション、企画展で活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	近代美術館所蔵作品館外貸出基準
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	近代美術館条例
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	収蔵品データベース
⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵品データベース	
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	定期的に環境調査を実施
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	展示替え毎に解説アプリを活用
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	ペーパーレス化を図り、壁面等に掲出
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍で展示室での解説は未実施。
			3月末推定:B	
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	可能なものは実施
⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	ちらし、ポスター、HP	
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	印刷物、HP、SNS
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	はがき、電話、FAX、電子申請等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	一般、子ども(未就学児を含む)
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	ボランティアスタッフの配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	ボランティアスタッフの配置、注意喚起
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティアの種別ごとに整備・運営
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP、年報等での活動報告・予告
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	浦和パルコ店との連携
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館の方針を念頭に置き、各個人で設定
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B 3月末推定：B	単発の助成金のみ。3件申請中。
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	MOMASコレクション、企画展で成果を公表
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	専門研修に参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	県内作家の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	巡回展の共同開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	展示、図録、紀要などで成果を公表
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	レファレンス等情報提供
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	毎年度策定
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス止め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	毎年度策定 10月一部改訂
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	11月実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	設置済み
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子3台 ベビーカー5台

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設設備点検の実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用3台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	トイレ等の音声ガイダンスは未実施。
		3月末推定:B	
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	B	設置済みであるが目に留まりにくい
		3月末推定:B	
	⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	英・中・ハンガール語のフロア案内のみ
3月末推定:B			
⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	10:00~17:30	
⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	団体バス受入時に公園路の開放等	
施設の利活	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	危機管理マニュアル別冊に策定
	② 施設利用のための情報を公開しているか	A	HPで公開済み
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	A	一般展示室1~4及び講堂
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	一般展示室1~4及び講堂
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	6月県展実施
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	高校与真展・書道展実施

3. 館別独自項目チェックリスト

近代美術館

		評価基準	
		完了または順調に進捗している問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
展示事業の実施	① 展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	
	② 展示観覧者の目標数を設定し、その達成に努力しているか	A	
	③ 企画展の理解を深めるため学芸員による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	B	コロナ禍のため、3密を回避できる講演会等を実施。
		3月末推定:B	
	④ 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	A	広報紙の内容・印刷物配布先の見直し
⑤ 外部資金の導入に努力しているか	A	芸術文化振興基金	
教育普及及び連携・支援活動の実施	① 収蔵作品の理解を図るため学芸員による解説等を適宜実施しているか	B	コロナ禍のため、3密を回避できる解説会のみ実施
		3月末推定:B	
	② 美術に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	A	作家との対談、ワークショップなど
	③ 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	A	
	④ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	A	学校、教育事務所を対象に実施
	⑤ 館職員を学校へ派遣し授業協力を実施しているか	A	
	⑥ 教育普及用資料の貸し出しを実施しているか	A	複製画、鑑賞キット、アートカード等
⑦ 大学教員と協働しながら学生を適切に指導しているか	A	埼玉大学との授業連携等(単位認定)	
地域・他機関との交流・協力事業の実施	① 地域・他機関との交流・協力事業を実施しているか	A	浦和パルコ店との連携
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	A	田中保展

令和4年度 博物館施設 総合評価

施設名 近代美術館

		達成	未達	
全館共通	数値目標による評価	1月末実績	1	3
		3月末推定	1	3
各館独自	数値目標による評価	1月末実績	2	7
		3月末推定	2	7

		完了A	課題有B	未着手C	
全館共通	チェックリストによる評価	1月末実績	82	8	0
		3月末推定	82	8	0
各館独自	チェックリストによる評価	1月末実績	12	2	0
		3月末推定	12	2	0

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「開館40周年記念展」「田中保とその時代」「桃源郷通行許可証」は、コレクションを多角的な観点から再検証し活用する事例として、一定の成果を上げることができた。「桃源郷通行許可証」では、出品作家とゲストによるアーティスト・トークなど、展示への理解を深めるイベントを対面で開催することができた。 常設展の観覧者数は、好調であった昨年の数値には及ばなかったが、目標値の84%程度は達成できる見込みである。夏休み期間にあわせ、デザイン椅子を紹介する「デザインで語るユートピアー1960ー70年代のイタリアから」を開催したり、県内ゆかり作家の調査研究を元にした特集展示を実施するなど、全体のプログラムに工夫を凝らした。 コロナ禍で開催が中止となっていた第70回記念「県展」が、主催者側との連携により、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図りながら3年ぶりに開催されたことは、地域にとどまらず県全体の活性化に繋がり、県立美術館としての役割を果たすことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 展示活動や人数制限が可能なイベントに関しては順調に実施できているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、3密になりやすい展示室内でのイベント(ギャラリートーク、ボランティアのガイドなど)は開催を控えている。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> 展示室内でのギャラリートークなどについては、今後、新型コロナウイルス感染症対策の緩和の時期を見極め、段階的な実施を検討していく。 その一方で、引き続き、必要に応じて、著作権上の問題が発生せず、技術的に調整が可能な場合には、オンラインでの講演会等を開催する。 <p><参考1> 対面でのトークイベントやボランティア活動であっても、展示室内以外では、新型コロナウイルス感染防止の観点を踏まえながら、段階的に再開している。例えば、講堂での催しは参加人数を制限して実施している。また、美術館サポーターによるガイド(ボランティアのガイド)は、定員を絞り、屋外彫刻、建築、館内のフリースペースの作品の案内を再開している。</p> <p><参考2> オンライントーク「岩槻出身の田中保画伯を語る」(岩槻観光委員会×埼玉県立近代美術館) 岩槻観光委員会の担当者と当館学芸員がオンライントークにより田中保を紹介。 日時:2022年9月10日(土)18:30~19:45、開催方法:オンライン(Zoom)、定員:先着100名(無料)</p>

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見